

平成30年度 医学部・看護学部

新入生学外合宿 活動報告書



平成30年4月6日（金）～ 4月7日（土）

淡路夢舞台

- ・ 国際会議場
- ・ ウェスティンホテル淡路

◆ プログラム ◆

平成 30 年 4 月 6 日(金) [1 日目]

淡路夢舞台(国際会議場)に到着後、国際会議場 2F「メインホール」に

荷物をもって移動・着席してください。

○ 13:00－14:00

＜開会式・学生生活をはじめるにあたって＞ 国際会議場 2F「メインホール」

【司会進行】 医学学生生活支援センター長 佐浦 隆一 先生(リハビリテーション医学・教授)

＜導入・アイスブレイク＞ 国際会議場 2F「メインホール」

【司会進行】 澤村 律子 先生(保健管理室・講師)

○ 14:00－14:15

＜集合写真撮影 移動・休憩＞ 国際会議場 1F「ロビー」

○ 14:30－18:15

＜グループ別討論＞ 国際会議場 B1F「イベントホール」、2F「レセプションホール B」

※ 17:30 までは必ず会場にいてください。その後は終わったグループからホテルに移動してください。なお、グループ討論中に各自の客室ルームキーを配付しますので、キーとブックレットは紛失しないようにしてください。

『医学生・看護学生の手引き(講義・実習版)をつくろう!』

【テーマ】

“より良き医療人になる”という目標を叶えるための自らの抱負や目標、守るべき事項(自らが課す約束事)などをまとめて、これからの学生生活を有意義に送るための自分たちの手引き(マニュアル)を創ってください。

※ グループ別討論会場は 2 つに分かれているため、各自会場を確認しておいてください。

※ 上記テーマについてグループでディスカッションし、ポスターにまとめてください。

《代表者が国際会議場 2F 受付に完成したポスターを提出してください。》

○ 18:15－19:00

＜ホテル(ウェスティンホテル淡路)へ移動＞

ポスターが完成したグループからホテルの客室へ移動

→ メインホールに保管している荷物を忘れないように持って移動してください。
(メインホールの開錠は 17:30 以降)

→ それぞれ、指定の客室へ移動

→ 荷物を客室に置き次第、懇親会会場へ移動

○ 19:00－20:30

＜懇親会(夕食)＞ ウェスティンホテル淡路 1F 大宴会場「ステラ」

※ 参加者相互の理解と親睦を深める懇親の場です。

【司会進行】齊藤 昌久 先生(リハビリテーション医学・准教授)

山崎 歩 先生(小児看護学領域・准教授)

『開会の挨拶:学長(医学部長) 大槻 勝紀 先生』

『閉会の挨拶:看護学部長 道重 文子 先生』

懇親会終了後、諸連絡がありますので、各自着席して待機してください。

○ 20:30－21:30 まで

＜グループ別討論のポスター投票＞ ウェスティンホテル淡路 1F 「ルナ」、「クレシェンテ」

- ・20:30～21:10 の間、各グループ二班(A 班・B 班)に分かれて発表と投票を交互に行います。
- ・21:10 までに投票が完了しなかった場合でも、21:30 までには完了させてください。

○ 21:30 頃～

＜自由時間＞

※他のお客様もおられますので、客室内や客室前の廊下にて大声で話したり、ホテル内で騒ぐなど迷惑行為は行わないように注意してください。

また、合宿で利用する場所以外には立ち入らないでください。

※スリッパで客室外への出歩き厳禁※

■24:00 消灯■

24:00 までに就寝してください。

平成 30 年 4 月 7 日(土) [2 日目]

■ 起床 ■

○ 7:00－8:20

＜朝食＞ ウェスティンホテル淡路 1F 大宴会場「ステラ」

大宴会場「ステラ」 7:00～ドアオープン(座席は、前日の懇親会と同じです。)

＜チェックアウト＞

学生→国際会議場 2F 受付、教職員→ウェスティンホテル淡路 2F フロントデスク

8:00～ チェックアウト(ルームキー返却)開始

8:30 までに朝食およびチェックアウト(各部屋ごと)を済ませ、発表討論会場(国際会議場 2F「メインホール」)に着席してください。

※ チェックアウト後はホテル客室に戻ることができませんので、忘れ物がないか確認し、荷物を
持って国際会議場 2F メインホールまできてください。

※ ルームキーを受け取った状態(ブックレットにキーを入れた状態)で返却してください。

○ 8:30－10:30

＜発表討論会＞ 国際会議場 2F「メインホール」

【司会進行】看護学学生生活支援センター長 田中 克子 先生(慢性期成人看護学領域・教授)
齊藤 昌久 先生(リハビリテーション医学・准教授)

【総 評】小野 富三人 先生(生理学・教授)

前日のポスター投票結果の上位 3 グループとチューター投票結果で一番に選ばれた 1
グループの合計 4 グループが発表します。

○ 10:30－10:40

＜移動・休憩＞

○ 10:40－12:10

＜救急蘇生体験学習(講座・実習)＞ 国際会議場 B1F「イベントホール」

【講 師】西本 泰久 先生(大阪ライフサポート協会・理事長)

※ 救急蘇生体験学習の実習は床で実習を行うため、動きやすい服装で参加してください。
特に、女子学生はスカートの着用は避けて、ズボン等の服装で参加してください。

○ 12:10－12:20

＜移動・休憩＞

○ 12:20－13:00

＜昼食＞

学生→国際会議場 2F「メインホール」、

教職員・学生スタッフ→国際会議場 2F「レセプションホール B」

救急蘇生体験学習終了後、弁当を各自受け取り、発表討論会と同じ席に着席してください。

※ 忘れ物がないか確認をしておいてください。

※ 貴重品など手元に必要な荷物は分けておいてください。

○ 13:00－13:15

＜閉会式＞ 国際会議場 2F「メインホール」

【司会進行】看護学学生生活支援センター長 田中 克子 先生(慢性期成人看護学領域・教授)

各学部、総代、副総代の紹介

閉会式後、誘導に従い順次バスへ移動してください。

■13:30 頃 淡路夢舞台(国際会議場)出発予定■

■15:30 頃 新大阪(南口駐車場)到着予定■

バス到着次第、各自 解散とします。

◆ グループ別討論 ◆

医学生・看護学生の手引き(講義・実習版)をつくろう！

より良き医療人を目指す諸君の

大阪医科大学での講義・実習に対する期待と抱負を聞かせてください！！

【グループワークの趣旨】

1. 将来どのような“より良き医療人(医師・看護師など)”になりたいのか？を考えてください。
2. 皆さんが、なりたい“より良き医療人”に近づくためには、学生生活をどのように過ごしていけば良いでしょうか？
そのための方策を教えてください。また、講義や実習に対して、皆さんが大学や教員に希望することや期待することを教えてください。
3. そして、自学自習を含む講義や実習に対する皆さん自身の抱負や意気込み、学生生活を充実させるために、自らが自らに課す約束事、ルーチンなどをグループでまとめてください。

“より良き医療人になる”という漠然とした目標を、自分が解釈したイメージに落とし込み、そのために

- ・ 自分自身は、学生生活や日常生活で、何をどうしていくのか？
- ・ 講義や臨床実習に何を求め、何を返すのか？

など、具体的な事項を考えてください。

“より良き医療人になる”という目標を叶えるための自らの抱負や目標、守るべき事項(自らが課す約束事)、ルーチンなどをまとめて、これからの学生生活を有意義に送るための自分たちの手引き(マニュアル・ガイドライン)を創ってください。

【ポスター作製の方法】

グループごとに分かれて、各人が目指す“より良き医療人になる”ための準備(自学自習・講義・実習など)に対する期待と抱負をまとめて、“有意義な学生生活や日常生活を送るための医学生・看護学生のための手引き(講義・実習版)”を作成してください。

＜グループワークの進め方＞

① 役割を決める。

1. 司会進行係

2. 発表者 2 名

- ・ ポスター投票時、A 班・B 班に分かれた際の代表者となる。
- ・ 投票の結果、発表討論会で発表することとなった場合は、2 名のうち 1 名を代表発表者とする。

3. 書記（ディスカッション中）

4. タイムキーパー

5. ポスター清書係

② “より良き医療人”の具体的なイメージを述べる（例：1 分間スピーチ）。

③ “より良き医療人”になるために、自分自身はどのような学生生活・日常生活を過ごすつもりなのか？を述べる（例：次の 1 分間スピーチ）。

④ “より良き医療人”になるために、大学に対してどのような自学自習を含む講義や実習を期待するのかを述べる（例：最後の 1 分間スピーチ）。

（たとえば）

- ・ 抽象的でもいいので、講義・実習に期待すること（わくわく、ドキドキ？）
- ・ シラバス（講義予定表）に記載されている講義・実習に対しての期待
- ・ 講義・実習を有効に活用するための方策
- ・ 講義・実習を有効に活用したかどうかを教員に評価してもらう方法
- ・ シラバスに記載されていないが、“より良き医療人”になるために必要であり、新しく開設を期待する講義・実習の科目
- ・ その他の夢と希望

- ⑤ 期待する講義や実習を有効に活用するための抱負をまとめて“有意義な日常生活・学生生活を送るための医学生・看護学生のための手引き(講義・実習版)”を作成する。

● 手引き(ポスター)に必ず入れる項目

1. “より良き医療人”の具体的なイメージ(イラストでも OK！)
2. 講義や実習に期待すること、その講義や実習を行う教員に期待すること
3. 期待する講義や実習を有効に活用するための皆さんの抱負
4. 講義や実習を期待するレベルに高めるために、皆さん自身が自分で行わなければならないこと(責任ある大阪医科大学の学生として、自らが自らに課す遵守すべき事項など)やマイルーチン
5. その他の手引きに必要と考えられる事項

※手引き(ポスター)には、『グループ番号』を記入すること

- ⑥ 発表用の手引き(ポスター)を作成する。

- ・ グループで協力して、特大ポストイトに手引きを清書する。
- ・ 特大ポストイト 1 枚に発表の内容をまとめる。
- ・ 文字は大きく見やすいように記入する。
- ・ 内容がわかりやすいようにイラストや図表も適宜使用する。

- ⑦ 作成した発表用の手引き(ポスター)をグループの代表者が受付に提出する。

<グループ討議の注意点>

1. 全員が参加して発言する。
自分の意見を大きな声で述べよう。
「だれだれと同じ」「だれだれと同じ」で済ませない。
進行役は、全員が発言できるように促したり、気を配ったりする。
2. 要点は、はっきりと手短かに述べる。
テーマから外れないよう注意する。要点を整理して話そう。
3. 相手の意見を尊重し、最後まで聞く。
誰かが発言している間は集中して聞く。発言を途中で遮らない。
4. 議論白熱は歓迎、ただし冷静に行う。
違う意見もいったん受け入れよう。感情的にならない。
揚げ足とりや人格への攻撃は禁止です。
5. 前向きな態度で取り組む。
明るく前向きをモットーとしよう。
私語、居眠り、斜に構えた態度などで、場の雰囲気壊さない。

<ブレインストーミングのやり方>

ブレインストーミングとは、頭の中を嵐のように回転させて自由なアイデアを出すための会議の方法です。

- ① はじめに各人が意見を出す。
1人ずつ意見を言っていく。
- ② 出た意見を全てカテゴリー別に分類してみる。
1枚の紙に一つの意見を書く(1人3枚以上書く)など
- ③ 追加の意見を出す、内容を検討する。

『ブレインストーミングの4原則』

次の4つの原則に基づいてグループワークを行ってください。

- ・ 批判厳禁(他人の意見を否定してはいけません)
- ・ 自由奔放(どんな突飛な意見でも構いません)
- ・ 質より量(発言、アイデアは多ければ多いほどよい)

- ・ 便乗歓迎（他人の意見をちょっと変えただけの意見也大歓迎）

そしてある程度、アイデアが出そろったら、「批判解禁」して、使える意見の選別、また、意見の整理を行う。

ブレインストーミングを行うことによって

- ① どんな意見やアイデアが多いか、傾向が分かる。
- ② 少数派の意見やアイデアも拾える。
- ③ 似たような内容であったとしても、言葉の使い方や表現方法の選択肢が広がる。
- ④ 全体のイメージをグループで共有できる。

＜グループとしての意見をまとめる前に＞

メンバー全員が十分に意見を出し尽くしたか？

- ・ 自由奔放に意見が言い合えたか？
- ・ 遠慮はなかったか？
- ・ まだ発言していない人はいないか？

多数決で決めようとしていないか？

- ・ 少数意見を尊重したか？
- ・ 1つひとつの意見を吟味したか？

理由は明確か？

- ・ 声の大きい人の意見に引きずられていないか？
- ・ 本当に納得できる理由か？
- ・ ○○がそう言っていたから、○○にそう書いてあったから、という安易な理由で決めようとしていないか？

<議論が行き詰まったら>

チューターの出番です。

ただし、チューターは、正解を教えてくれる人ではありません。

チューターは、議論が大幅に脱線してしまいそうときには、警告を出します。

また、メンバーが議論の仕方がわからないときは、そのやり方を教えます。

チューターはみなさんの先輩です。みなさんよりたくさんの経験を積んでいます。

チューターの経験を聞くことによって、新しいアイデアが浮かぶかもしれません。

<ポスター発表・投票について>

懇親会終了後、ウェスティンホテル淡路 1F「ルナ」、「クレシェンテ」でポスター発表・投票を行います。各グループ二班(A 班・B 班)に分かれて発表と投票を交互に行います。

「投票の手順」

① 20:30～20:50 A 班は各グループポスター前で投票者からの質問等に答える。

B 班は他のグループのポスター、発表等を見聞きして良かった 2 グループに投票する。

② 20:50～21:10 B 班は各グループポスター前で投票者からの質問等に答える。

A 班は他のグループのポスター、発表等を見聞きして良かった 2 グループに投票する。

③ 21:10～ 投票が完了していないグループは投票を行う。

「投票時の注意事項」

- ・ 各グループで投票できるのは 4 グループまでです(A 班 2 票、B 班 2 票)。
- ・ A 班、B 班の投票先が重複しても可とします。
- ・ 自分たちのグループに投票することはできません。

『他のグループの発表を評価する時のポイント』

他のグループの発表を評価する際には、下記のポイントに注目して評価しましょう。

また、自分たちのグループの発表と比べてみるのもよいでしょう。

- ・ 手引きの形式を満たしているか？
- ・ 有意義な学生生活を送るための手引き(講義・実習版)として妥当な内容か？
- ・ 講義や実習を楽しむ要素があるか？
- ・ 文章・文言・イラストなどが美しいか？
- ・ 発表の明瞭さ、わかりやすさはどうか？

【発表討論会の進め方】

投票の結果、上位の 3 グループと、チューターに一番選ばれた 1 グループの合計 4 グループ
を選出します。

概 要 説 明

司会より進め方の概要、注意点説明(10 分)



発 表 (1 グループ約 7 分、2 グループ 15 分以内)



討 論

各グループ内で発表された内容について討論(5 分程度)
発表したグループに質問、意見発表(15 分程度)
上記を 2 セット実施する。



総 評

◆ グループ別討論 ポスター ◆

第 1 位

学生得票数 28 票



第 2 位

学生得票数 15 票





第3位

学生得票数 14 票



チューター賞

チューター得票数
7 票

より良い医療人の理想像

②

1. コミュニケーション
2. 技術と知識
3. 経験

↓
問題解決能力

そのために

- PBL** Problem Based Learning
1. PBL
 2. 人間関係

私たちが求めるもの

1. 講義の実用性、自主性の尊重
2. 情報共有、協力体制

OMCTube

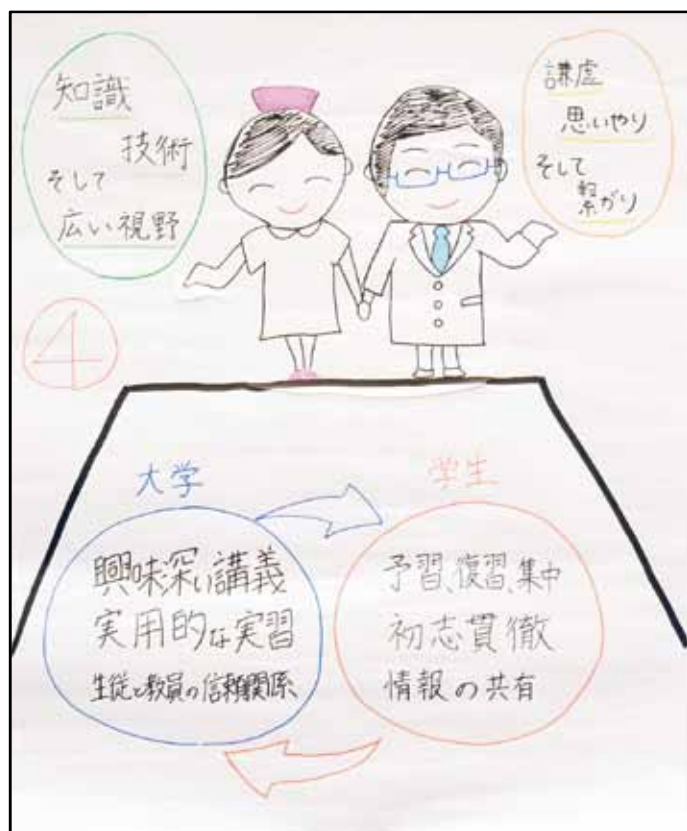
より良い医療人とは?

視聴回数 1 億回

SanTV

チャンネル登録

	Q. 患者が求めることは? A. 自ら考え質問しやすい雰囲気のある人
	Q. 医学生の抱負は? A. 医療人としての責任を持ち行動すること
	Q. 学生が守るべきことは? A. 勉学にはげめる環境を作り、めりけりと持ちこた生活を送ること

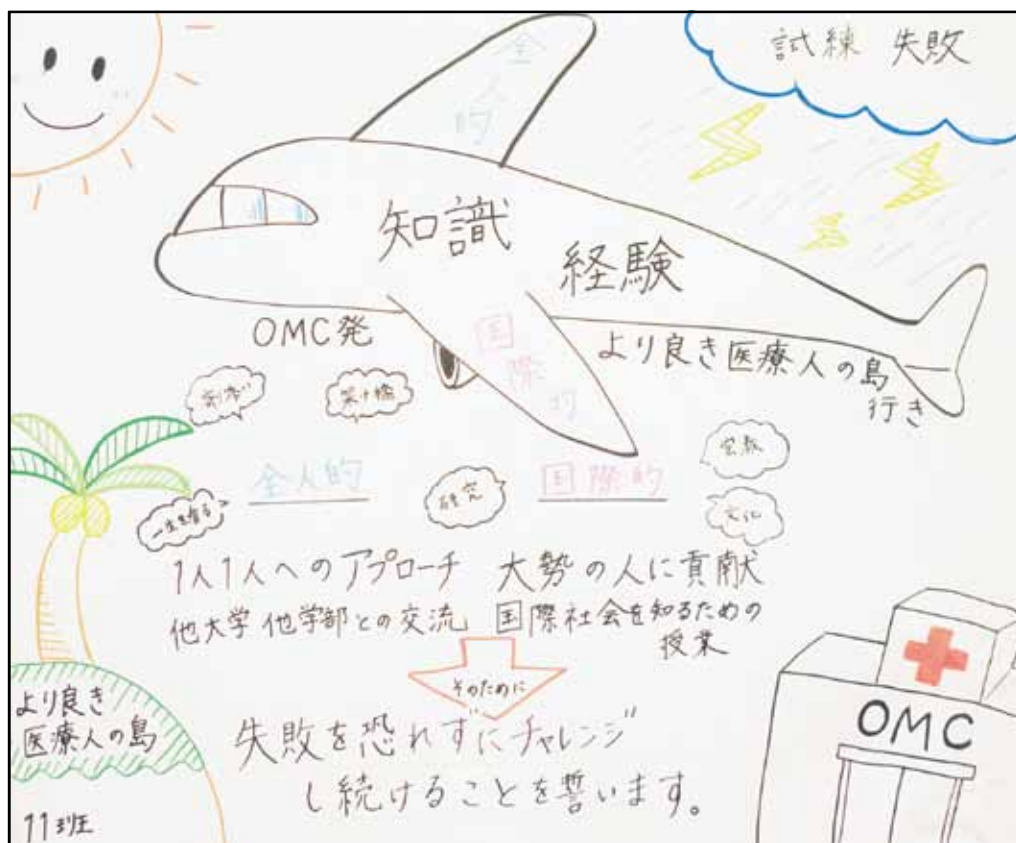
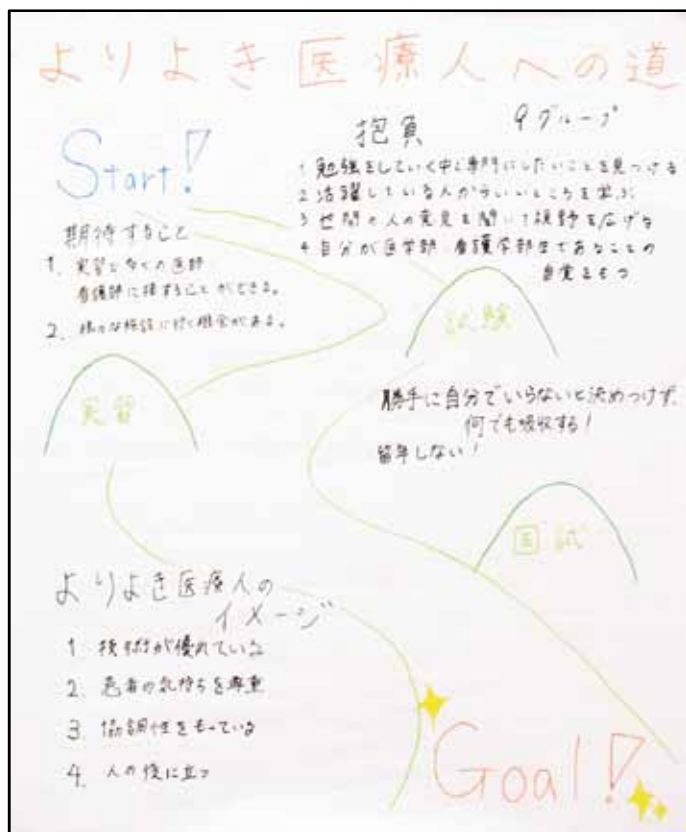


なろうや!! 医療人

医療人になるための
秘密道具

LECRAS

Learn
English
Communication
responsibility
Active
Skill



12 OMCピラミッド

よりよい医療人とは？

信頼関係を築いていける人

コミュニケーション能力	判断力
誰とでも積極的に接する	知識をつなげる
- ディスカッションを取り入れた授業 - 意見を言いやすい環境作り	- 知識が横に広がる授業 - 先生が授業に遅れない
- 他人に関心をもつ - 他人の意見を受け入れ共有する - 相手の立場になって考える	- 予習・復習をする - 疑問をすぐに解消する - 遅刻・欠席をしない - 私語をつつしむ

抱負

大学に求めること

やるべきこと

私たちは
この気持ちを忘れず、社会に貢献していきます！

○○○○○OMC 4:06 4* 16%

14 医療人になろうや

より良い医療人になる条件って何かな～？

やっぱコミュカじゃね？

わろたWW あっとるやん

そのために何すんの？

積極性っしょ

そうだね！自分から働きかけるのがいいよね

大学側からも患者さんとの触れ合いが増やしてほしいよね

私たちは医療人
その自覚を持って毎日の生活を大切にしよう

MEDICAL TREE の育て方 (16)

「より良い医療人になりたい」の種

肥料

- クラブ 運動系 + 文化系
- 講義 他職種・医者の連携
- 実習 まんべんなく勉強 現地に行く

あげろ時のポイント

- 患者さんに寄りそうの実
- 幅広い知識の実
- コミュカの実
- 体力の実

HAPPY!!

モチベーションを保てる授業を求めます!!

正面から向き合える友人

他職種への理解

コツコツ学ぶ習慣

17

班

- ・コミュニケーション能力
- ・グループ医療
- ・「患者」自身を見る
- ・高い技術力
- ・豊富な知識

より良い医療人になるために

18G

ゴール

常に愛を傾ける心
患者さんに寄り添う心

積極的に行動する!!

医学的知識の習得

社会的スキル

世界的視野

スタート

私たちは
どう
生きるか

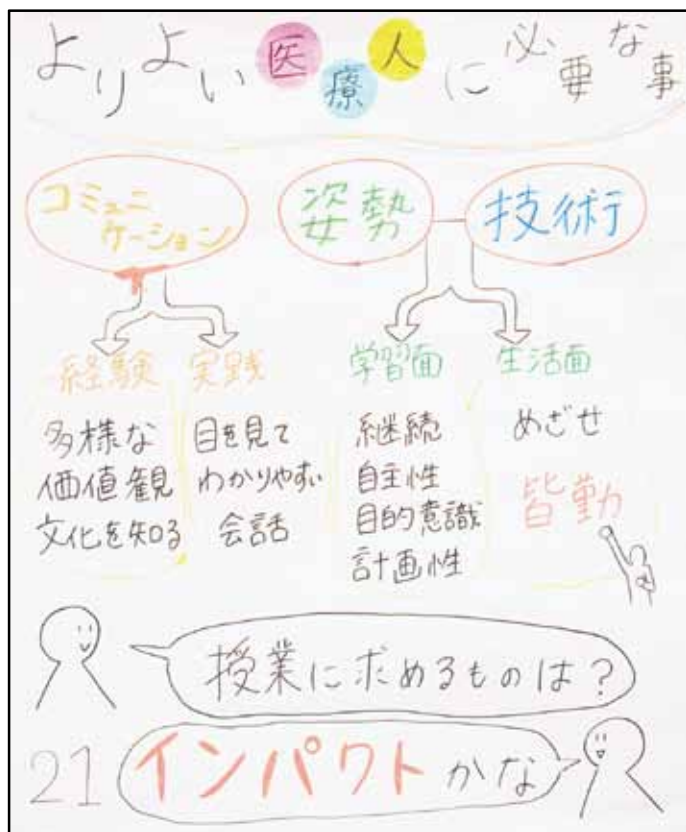
文武両道

オープンマインド

誠実

20

コミュニケーション
マインドフルネス
調



良き医療人への道

良き医療人とは

- ・思いやりがある
- ・協調性がある
- ・寛容な心を持つ
- ・患者さんを主体に考える

大学へ期待すること

課題を見つけ意見交換し
レガの参加型の授業

理想の学生像

社会に目と向き勉強と遊びを
楽しめながら両立を充実させる

22 班

いろんな人の病気や悩みを支える知識と人生経験を持った人になりたい!!!!

部活したい!!

旅行に行きたい!!!

バイトしたい

遊ぶたい

勉強もほんとにマジにやりこい...

知識を深めたい!!!

ほんとに寝たくない!!!

たまねくん

だ・け・と

時間がないうす!

23 班

よりよい医療人になるために

- ① 豊富な知識と高い技術力を持っている。
- ② 患者、その家族、医療従事者によるコミュニケーションをとれる。
- ③ 思いやりがあり、表向きだけでなく、心身共に寄り添える。
- ④ 患者だけでなく、患者の保護者への信頼できる。

・熱心な講義

・モチベーションを保てるような実習

・患者と多くの触れあえる実習によって、良い医療従事者になりたいニャー??

1 回生の実習で医師や看護師の立場をしっかりと学びたいと思います!

高山ニャ道

グループ24

～今後の抱負～

- ① 習ったことをテストのためだけでなく、将来より良き医療人になるために使う。
- ② 予習・復習をして一日を大事にする。
- ③ 暗記学習から脱却し、リサーチマインドを持って学ぶ。
- ④ 入学時に描いた理想像を忘れず日常を過ごす。



25

チーム医療をするのに必要なこと

コミュニケーション能力

自分は...

- ・クラブ活動
- ・ボランティア活動

大学は...

- ・学年を超えた
- ・学部を超えた
- ・実際の症例を用いた模擬実習

実習

プロ意識を持つ

自分は...

- ・知識を十分に養う

大学は...

- ・最新の医療を学べる授業

互いを理解・尊重

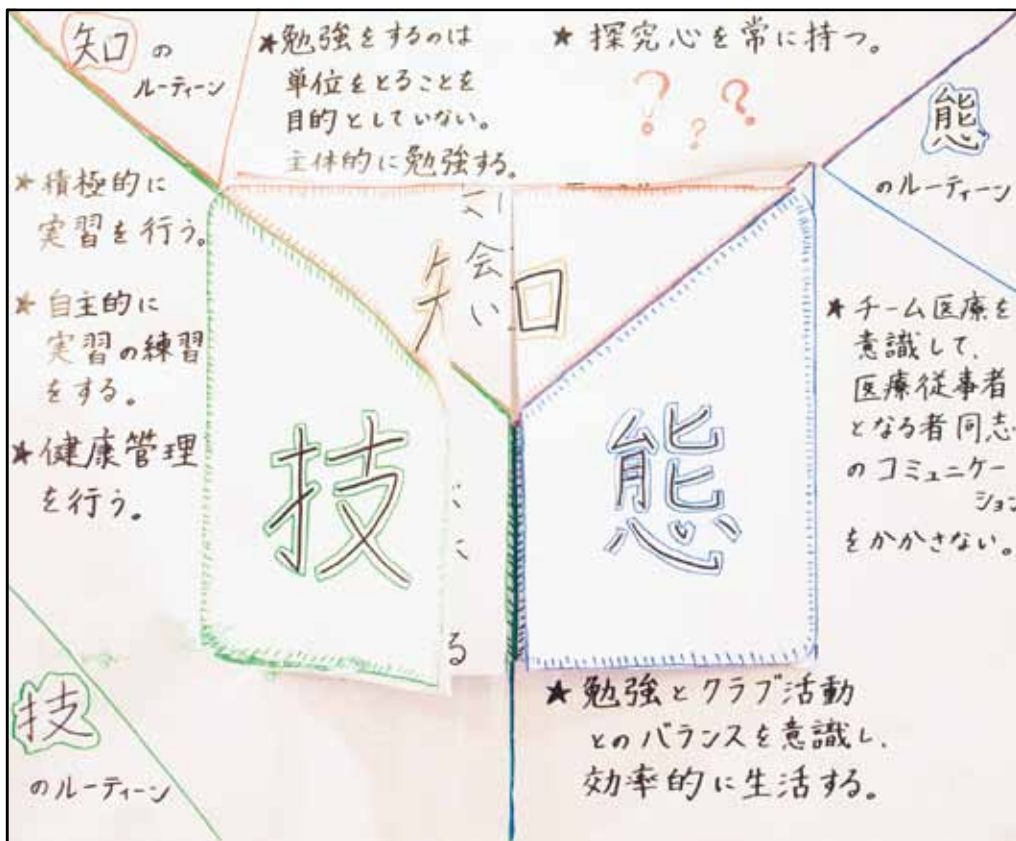
自分は...

- ・積極的に校舎の
出入りをし、仲を深める

大学は...

- ・他職種の仕事内容を学べる授業
- ・自己他役割を理解し実践





大医生の手引き

理想

- (A) 医療人には、確かな技術と知識
そして豊かな人間性が必要である
- (B) 社会の変化に柔軟に対応できる
質の高い医療を提供する

その為に...

- (A) 将来のイメージノートを作る
- (B) 今何が必要とされているか知る

大学に求める事

- (A) 一年目から医師・看護師に付いて見学
- (B) 具体的なニーズに対するアクティブラーニング

それによて...

私たちは、社会のニーズに応える安全で
質の高い医療を皆様に提供するとともに、
良識ある人間性豊かな医療人になります。

(29)

常に努力・挑戦・続けられる力の中身

教員に期待すること

- ・人との出会いが学ぶ機会
 - ・リアルな話を聞きたい
- もしも... 再試3,000円/人まで?

マイルーチン・イチローは朝カレー

私達は不申BODY (有意義な学生生活の積み重ね)

- ・積極的行動
- ・チャンスをつかむ
- ・やらない後悔よりやって後悔
- ・健康管理

私達がすべきことは
not only study but
30

より良い医療人

思いやり

想像力

公私

仕事が好き

ハカケ 講義 実習 マイルーチン

- ・医師の自覚を持つんだ
- ・先生からリアルな現場を
教えてほしい
- ・自分たよりどうするかを!?
- ・病院の経営 仕組みを
知りたい
- ・環境を生かして、たくさん
人と関わるのいいよね!
- ・後援役立つ手話・点字
などの授業を受けたい
- ・医療人のイメージ広げる!
- ・OBと仲良くしよう!
- ・読書 いいよね!

より良い医療人になるために

—より良い医療人とは?—

- ① 知識 → 興味が行くような授業
予習、復習を欠かさない。
- ② 技術 → 低学年のうちから実践的な授業
トレーニング (シミュレーション)
- ③ コミュカ → 他職種、患者との交流の機会
部活、バイト、ボランティアへの
積極的な参加
- ④ 学ぶ姿勢 → 英語教育、最新情報の提供
生涯にわたって勉強し続ける

上記のような医療人になれるよう
日々努力します。

32班

◆ 新入生学外合宿の様子 ◆

◆ 淡路ハイウェイオアシスにて



◆ 開会式・学生生活をはじめるにあたって



◆アイスブレイク



◆平成 30 年度 新入生学外合宿集合写真



◆グループ別討論＜医学生・看護学生の手引き(講義・実習版)をつくろう！＞





◆懇親会



◆グループ別討論のポスター投票



◆ 発表討論会



◆救急蘇生体験学習



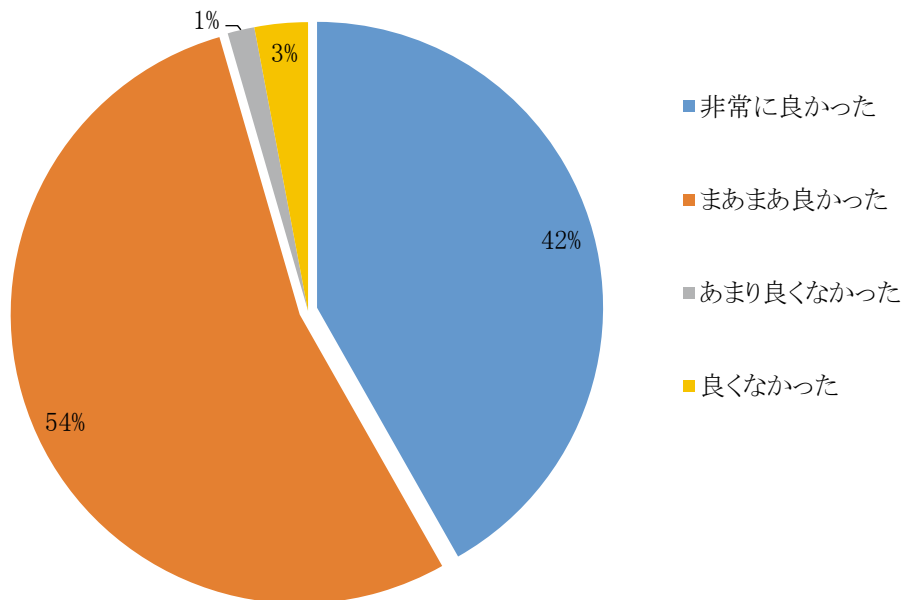
◆閉会式、総代・副総代の紹介



◆ 参加者アンケート結果 ◆

< 医学部学生 >

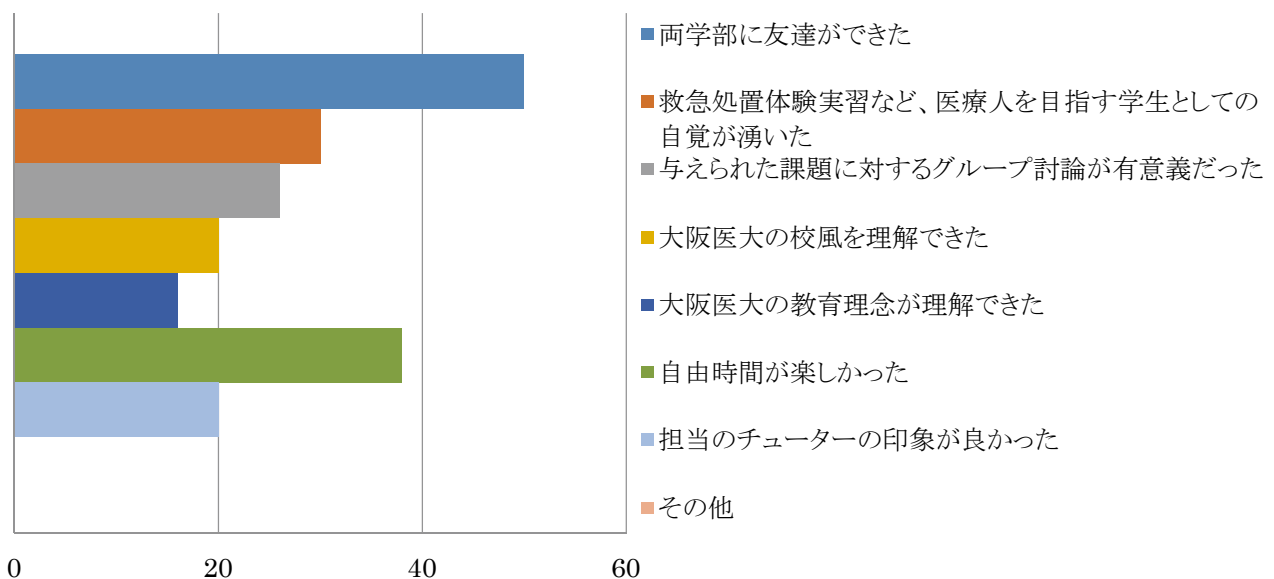
1. 与えられた課題の内容はどうでしたか？



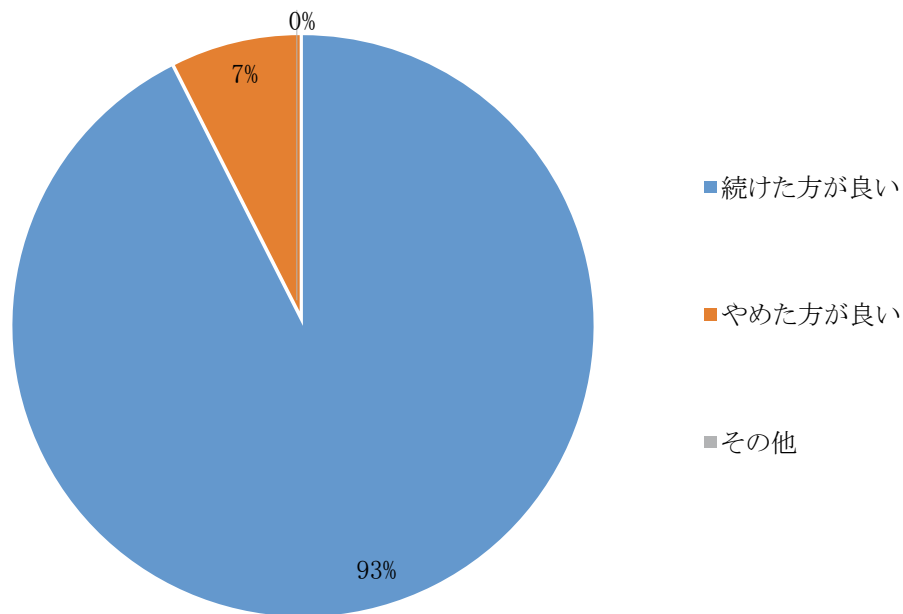
※ c、dを選んだ方は、どういった内容の課題の方が良かったでしょうか。
何かふさわしい課題名(タイトル名)等があればお聞かせください。

- ・1年生が良き医療人を語るのはどうなのかな？と。
- ・課題に対する答えの多様性が低すぎる。

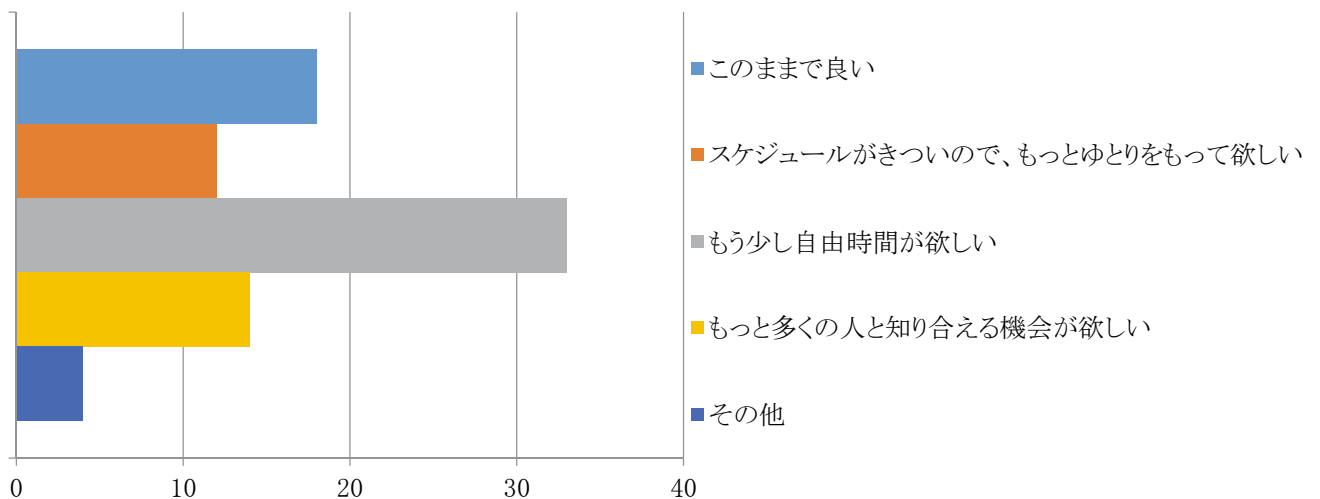
2. 印象に残っていることは？(複数選択可)



3. 来年度も新入生対象に、この合宿を続けた方が良いと思いますか？



4. 来年度以降どのような新入生学外合宿にしたら良いと思いますか？



<その他の意見>

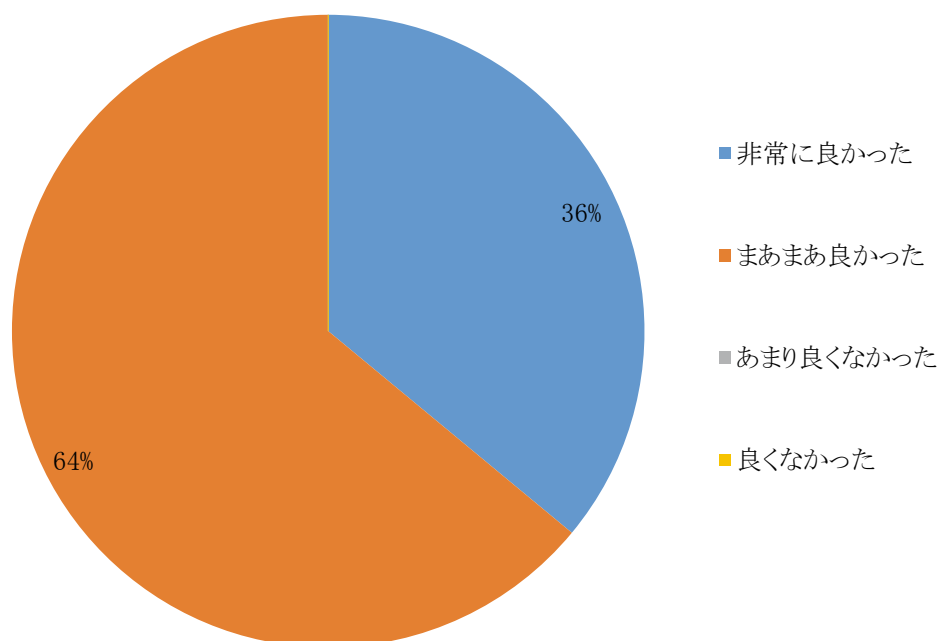
- ・課題をもう少し軽くすべき。
- ・せっかく淡路島に行くので、外で観光実習がしたい。
- ・2泊3日にしたらいいと思う。
- ・もっと安くして欲しい。

5. 医学部・看護学部の両学部合同で行ったことについての感想や、その他意見があればお願いします。

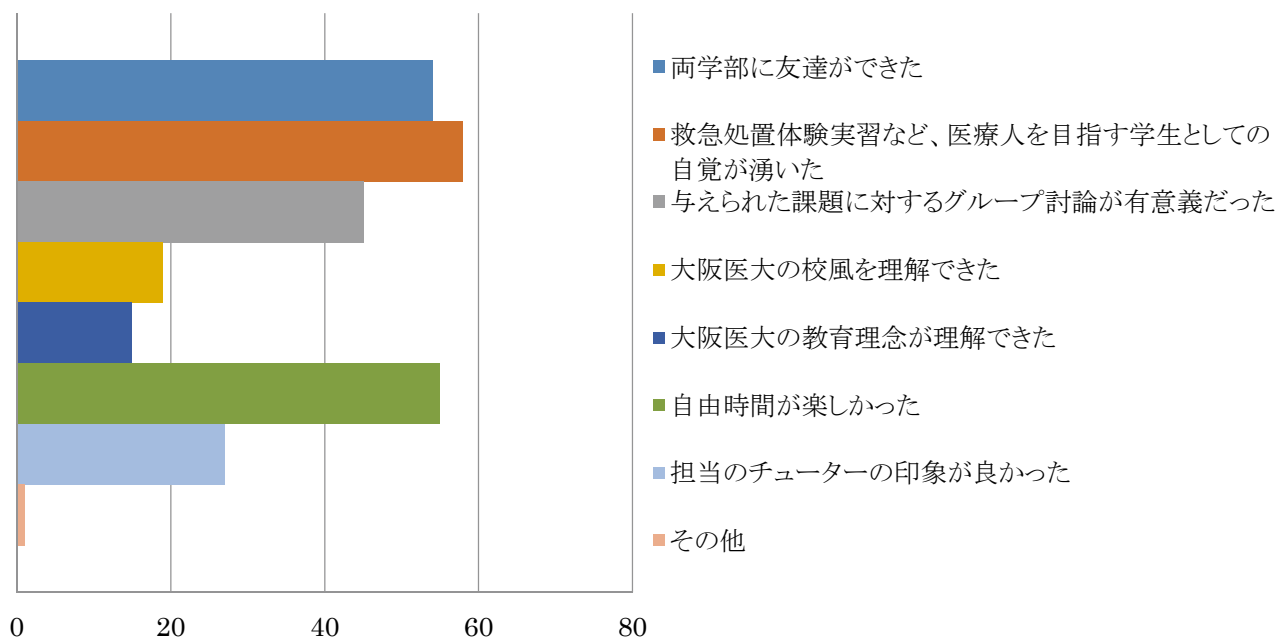
- ・今後、チーム医療が必須であると言われているなかで、両学部合同で合宿を行うことはとても有意義であったと思います。
- ・今回のポスターの題について議論するには、医学部、看護学部の両学生が必要なので、両学部生がともに議論する形式はよかった。
- ・看護の方々と知り合える数少ない機会なので良かった。
- ・看護学部のことを知れて良かったです。
- ・医学部だけでなく、看護学部の友人とも親睦を深めることができて良かったです。
- ・看護の友達ができて嬉しかった。
- ・看護の人とも話ができて良かったです。
- ・看護学部の友達もできたので良かった。
- ・看護学部の友達ができたのは良かったです。それとホテルの周辺を楽しみたかったです。
- ・もっと看護学部と接する機会がほしかった。
- ・多様な視点から考えることが出来た。
- ・入学して間もないときに多くの人や先生と交流でき、関係が広がり、とても良かった。
- ・もっと両学部内外で活動できる場があるとよかった。他は非常に良かった。
- ・医学部女子が1人だったので不安だったけど、いっぱいしゃべれて良かったです。
- ・課題名を変えてみた方がいいと思う。
- ・もう少し長くしてもいいと思います。
- ・良き医療人として贅沢は控えるべき。
- ・ウェスティンホテルである必要性が分からなかった。
- ・せわしなくて疲れたが、楽しかった。
- ・楽しかったです！
- ・想像していたよりも楽しかったです。

<看護学部学生>

1. 与えられた課題の内容はどうでしたか？



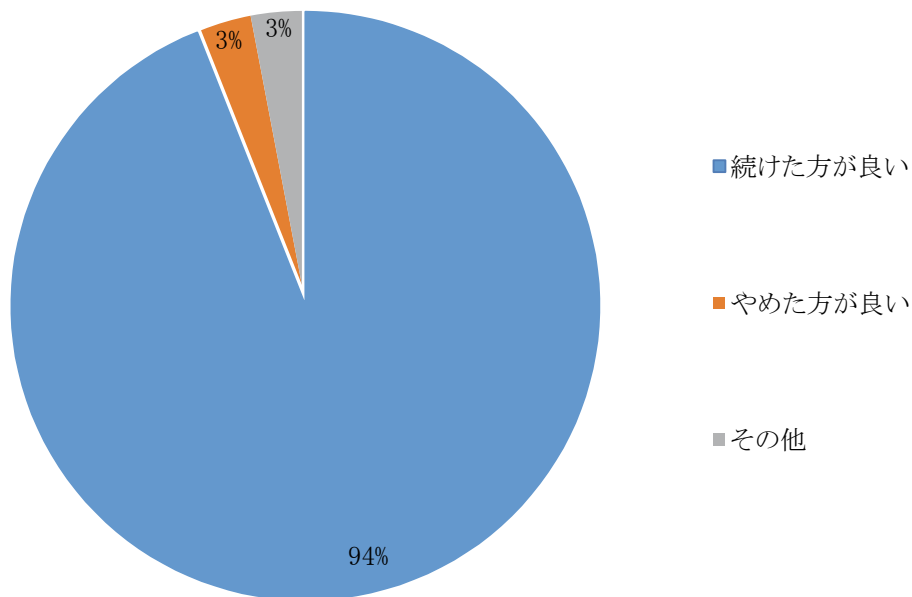
2. 印象に残っていることは？（複数選択可）



<その他の意見>

・夕食が美味しかった。

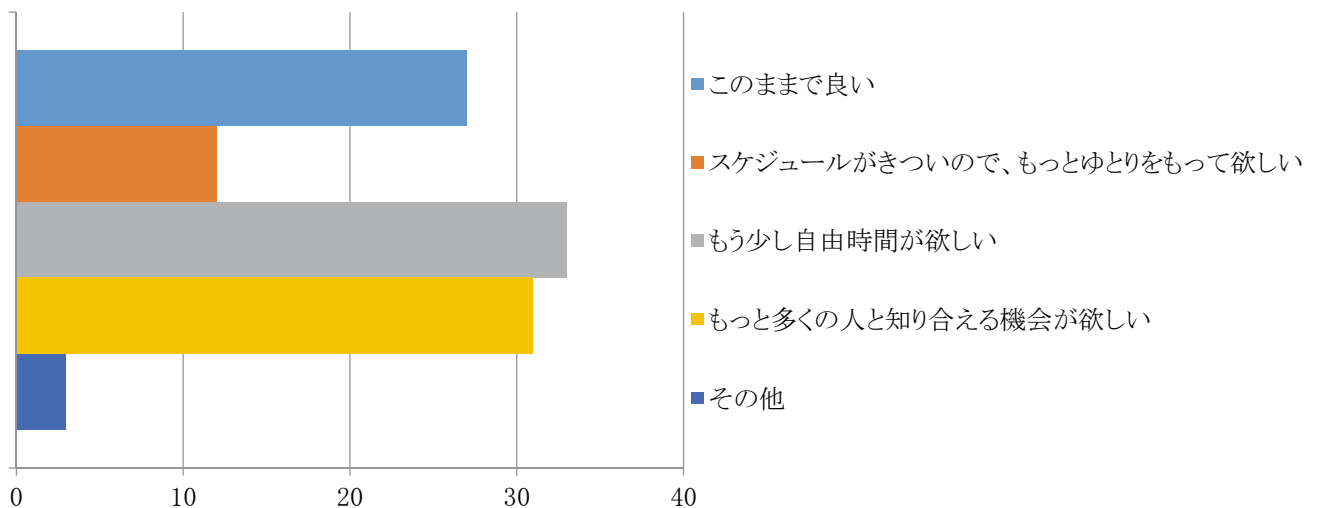
3. 来年度も新入生対象に、この合宿を続けた方が良いと思いますか？



<その他の意見>

- ・討論会の時間をもう少し短くするべきと思う。
- ・自由時間を増やしてほしいです。

4. 来年度以降どのような新入生学外合宿にしたら良いと思いますか？



<その他の意見>

- ・討論の時間をもう少し短く。
- ・討論会が長すぎる。

5. 医学部・看護学部両学部合同で行ったことについての感想や、その他意見があればお願いします。

- ・医学部との交流も深めることができたのでとても有意義な2日間が過ごせました。
- ・看護だけのかたよった意見だけでなく、医学部の話も聞けたのでためになりました。
- ・医看で考えを共有できたのはとても良かったです。討論が楽しく思え、発言力が高まったと思います。
- ・医学部の方の意見がたくさん聞けて、これから自分が看護師になることに向けて頑張ろうと律するいい機会だった。
- ・医学部の人とディベートできたのは良い経験だったなあとと思います。
- ・みんなが1人ずつきちんと意見を出していてよいと思った。
- ・両学部で話し合うことで考え方の違いを発見することができたので良かったです。
- ・薬学部もまじえた討論もしてみたかった。
- ・もう少し医看合同の場(レクリエーションなど)が欲しかった。
- ・グループ討論の時間が長かった。
- ・グループ討論が長すぎです。淡路島観光したかったです。
- ・チューターの紹介を履修登録前に行っておいてほしかった。
- ・発表での医学部の人たちの“質問”が自分には思いつかないものだったので刺激になった。
- ・救急処置体験実習が良かったです。
- ・総代の決め方についてですが、募集の紙に「当日立候補してください」と書いてあるにもかかわらず、先生の指名だけで「もう決まっている」と言うのはおかしいと思います。一般的に立候補がない時に最終手段で行う方法であり、立候補をつのらなかつたことで、やろうと思っていた子がもしいたら、その子の積極性をつぶしてしまったことになるのではないのでしょうか。それがずっと心配です。
- ・合宿のおかげで友だちがたくさんできたのでこれからも続けてほしいと思います。自由時間がもう少しあれば良いかなと思いました。
- ・はじめは嫌だなあと、思っていたけど、いざ始まると、楽しかったし、とても有意義な時間を過ごすことができたので、良かったです。
- ・ホテルがキレイで良かったです。
- ・ご飯がおいしかったです！！
- ・他学部のいろいろな人と話がしたいと思った。たくさんの人と話がしたかった。
- ・医学部との壁が高かったです。
- ・看護内も医学部もどっちも友だちができてよかった。

- もう少し、仲よくなれるようなプログラムがほしい。
- 医学部の人とお友達になれて良かったです。楽しかった！！
- 普段医学部と関わる機会が少ないので、友だちができて良かったです。
- どちらの学部の意見も聞くことができて良かったです。昼も夜もごはんおいしかったです。
朝も！
- いろんな人と知り合えて良かったです。

<教 員>

1.今回の合宿で良かった点

◆学生スタッフについて

- ・先輩学生のサポートが有効であった。
- ・学生チューターの導入は非常に良かった⇒屋根瓦式教育の基盤となる。
- ・行き帰りのバスに、在学生(上級生)が乗車してくれていたこと。新入生の点呼を任すことができ、大助かりでした。

◆グループ別討論について

- ・医学部の学生と看護学部の学生がグループワークを通して活発に意見交換できたのが良かった。グループワークや発表を通して、自分の考えを整理したり、自分と違う意見を聞くことができたことは学生にとって大いに刺激になり、今後学生生活を有意義におくっていくためのモチベーションUPにつながったのではないかと思う。
- ・医学生、看護学生、チューターが三位一体となってひとつの課題に取り組めたこと。何の気づかいもなく、リラックスして打ち解けていたこと。
- ・討論で、古い教員がでしゃばることなく、学生の積極的な質問と、大阪医大卒の若い教員により質疑応答ができたこと。
- ・医学生、看護学生のディスカッションは人数 6～7 名程度であったため、全員が意見を言い合えた。
- ・レディネスの異なる医学生と看護学生が一緒に討議することで刺激になり、自分の不得意部分の自覚や、他者の得意な部分を自分のスキルとして修得できる良い機会となった。医学生のロジックな思考展開、看護学生の柔軟な発想など互いの強みを自分のものにできるよう期待します。
- ・ポスター作りは良かった。最初は一人でやっていたが、後半になる時に全員がかかわっていて、打ち解けた模様。
- ・医学部の学生も看護学部の学生も別け隔てなく活発な交流ができていたように感じる。
- ・討議の時間を長くしてくださったことで、やや広いテーマではあったが、時間をかけて意見を出し合い、まとめていくことができたと思う。
- ・グループ作業の時間が長かった。
- ・昨年よりも発表時間を長くしたことで、学生同士が関係を築きつつ、ディスカッションできた。
- ・討論会の時間がしっかりと確保されており、一通り意見を言い合えることができたように思う。
- ・前回と比較して話し合いの時間に余裕があった。
- ・話し合いの時間が十分あったのは良かったと思う。
- ・グループ討論の時間が多く取れたのはとてもよいことだったと思います。

- ・ポスター作成の時間に昨年よりも余裕がもてた。
- ・討論会の時間が長くなり、学生の発表をゆっくり聞くことができた。
- ・討論の時間を十分取れ、学生どうしの交流も深められたと感じました。
- ・グループディスカッションで十分な時間が取れたこと。
- ・討論会の時間が長すぎたかな？と思っていました。しかし、全てのグループがほぼ時間内にポスターが完成できたこと。完成度は昨年度よりも良かったように思う。

◆グループ別討論のポスター投票について

- ・ポスター発表の時によくディスカッションしたこと。
- ・学会発表の事前練習として良い機会になる。今後も学術活動を行う大学生としてポスター発表のコツなども意識できれば良いと思いました。
- ・ポスター展示会場は見やすく、生徒との距離感も良かったように思う。
- ・説明係をつけることで、学会のポスターセッションのシミュレーションができ、多くの学生が発表の機会を得た。
- ・発表で学生が説明に立ったこと。
- ・ポスター会場が広がった。

◆発表討論会について

- ・ポスター発表も司会の先生方お二人が、参加している学生さん達の質疑をうまく引き出し、学生間のディスカッションも活発であり学生が考えている思考がよく理解でき、とても良かったと思いました。
- ・討論発表会では、参加学生から数多くの質問（質問者は限られていましたが）が出たこと。

◆その他

- ・入学して間もない時期ではあったが、同じ学部または他の学部の学生と交流することができ、関係を築くことができていた。
- ・昨年度とスケジュールの一部が変更して、討論時間も多く確保されて深く話し合いができたと感じています。
- ・大きなトラブルもなく無事に終了できた。
- ・教員同士、コミュニケーションが取れた。
- ・学生との話し合い。
- ・学生が全員怪我や事故なく合宿を終えられた。
- ・車酔いしやすい学生に対する配慮について、事前に教員間で情報共有ができた。
- ・昨年度の反省を十分に生かしきり教育のPDCAサイクルとなっていた。
- ・討論会の時間が長く取られていたことで、グループの状況により、休憩などがとれる自由度があっ

たこと。

- ・法人広報室から1名の参加、大変助かった。ポスターのデジタル化など。

2.今回の合宿で悪かった点

◆学生について

- ・学生がバスの中やホテルの中で大きな声で話したり、笑ったりしていたのが気になったため時々注意が必要であった。
- ・学生のマナー(学部生の先輩のサービスエリアでの喫煙:名札をつけており“医学生がタバコをすっている”と一般市民にすぐわかる、新入生のホテルでの騒がしさ:夜間も隣室に響きます)
- ・喫煙・飲酒の学生について。
- ・学生の声が夜遅くまで聞こえていた。他のお客様からのクレームはなかったのかと心配である。
- ・夜間、隣室から響く学生の声が許容範囲を超えている。また、喫煙や飲酒をしている学生もいたという話を聞く。遊びにきたのか、学業としてきたのか。禁酒禁煙や夜間の行動などについてのオリエンテーションもあまりにも緩すぎる。飲酒・喫煙をOKとするのならそれでも良い。ファジーにすべきではない。
- ・廊下でギャーギャーと騒ぐ学生の姿、ここは幼稚園かと思えるほどであった。

◆学生スタッフについて

- ・ちょっと残念だったのが、せっかく来てくれた学生チューターの活躍する場面がもう少しあればよかったかな、と思います。
- ・医学部の先輩たちの役割が明確でなく、本人たちも何をすべきか少し戸惑っており、学生によってはサークル勧誘になっている学生も見受けられました。様々な新入生への学生生活のアドバイスの役割がとれる時間の確保とともに2日目の発表の際の質疑マイクの担当などすこし役割として担える部分をお任せしてもよいのではと感じました。
- ・医学部に上級生の出席があるならば、看護学部の方にも上級生の出席があったほうが意見のバランスが取れたのではないかと思う。
- ・上級生の態度、関わりが良くないことも目立った(後半:水が置いてあった机に座る、グループワークに取り組もうという学生にクラブの勧誘や上級生(共通の知人?)の話をして全く関係のない話で盛り上がる、など)。
- ・せっかく在校生が学生スタッフとして参加してくれたのに、うまく活用できていない感じがしました。

◆グループ別討論について

- ・看護学部の学生があまりにもディスカッションできなさすぎる。
- ・グループワークの時間が少し長く、学生の集中力も持続しきれていなかったように思う。
- ・学生の主体性があったからなのか理由はわからないが、グループワークの途中に論文の添削(?)をしているチューターの先生がいた。急ぎなのかもしれないが、あの場ですべきことなのかと思った。
- ・人間の集中力は 50 分が限界だと思います。なので、もう少し、「チューターの方は休憩を十分に取りてください」にしないと疲労蓄積と新たなアイデアが出ないのかもしれない。

◆グループ別討論のポスター投票について

- ・発表の会場がせまかったため、各グループのポスターをみたり、発表を聞いたりすることが十分でなかった。発表担当の学生も立つ場所がなく困惑していた。
- ・ポスター会場は広くはなったがそれでも混んでいた。
- ・投票に際して、混雑しており、投票する所が見えるため少し投票しづらかった。
- ・ポスターの発表がせまい。
- ・ポスター掲示の会場が狭く、ゆっくりとポスターが見れなかった。

◆発表討論会について

- ・大阪医大卒臨床で研究バリバリやってる教員が討論の時間にはいなかったこと。仕事の関係上難しいかもしれませんが、あの場にいてくれたら更に有意義な討論になっていたかと思います。
- ・発表会はもっと活発に意見が出ると良かった(どうすればいいのかはわかりませんが)
- ・選ばれた 2 班ずつでの意見交換はいらないと思った。
- ・会場内の生徒 1 人の質問に舞台上の生徒が全員が答えるよりは、舞台上でまとめて答える方がまとまりあると思う。

◆その他

- ・特になし。一つだけ、マーカーのインクがよく出すぎて、ポスターを汚すトラブルが3-4回あった。
- ・特になく、100 点の出来でした。
- ・初日の教員の集合時間が不明確であった。10 分前には到着したが、もう少し早く来るべきだと言うご意見もある。決めておいて頂けないか。
- ・悪かったというほどの事はありませんでした。
- ・ホテルのエレベーターが混雑し、一般客に迷惑をかけたこと。

3.今後の合宿に向けて改善点や要望

◆学生スタッフについて

- ・2 人一組にして学生にチューターを任せるのもいいかもしれません。いかに新入生の主体性を引き出すかに関しては、学生でも十分できるかと思います。
- ・看護の学生チューターも参加して頂いて、看護 1 人、医学部 1 人の 2 人体制で上級生にチューターとして入ってもらいたいと思います。
- ・上級生が議論に入りにくいという意見があったので、グループ一つに所属させた方がいいと思います。
- ・学生スタッフの活用方法として、チューターと共にグループに貼り付けたほうがよいのではないのでしょうか。
- ・今回参加してくれた在校生は、討論会で色々とコメントをくれてよかったのですが、なかなかグループの中に入れず手持ち無沙汰にしている雰囲気もありました。グループのチューターとして参加してもよいと思います。
- ・在学生の討論グループへの関わりは、1 人 1 グループ。最初からグループに入っていた方が意見、アドバイスがしやすいように思えた。1 人複数グループだと、話の輪に入りにくいようだった。
- ・グループ別討論のチューターを教員から在学生（学生チューター？）に変えるのはどうでしょうか？（一気には難しかったら、徐々に増やすこともあり。）
- ・発表討論会の際、在学生が進行係をし、時間を仕切ったり、質問したり、学生生活の実際の話やアドバイスをするのもいいと思う。
- ・討論会のマイク係などは、学生スタッフにお願いしてもよいのではないかと思います。
- ・ポスターの表彰に、学生スタッフが選んだポスター賞があってもよいのではないのでしょうか。
- ・お手伝いしてくれる上級生にも、予め目的や役割を明示し、希望者の中からこれらを理解できる学生を選んだほうが良いかもしれない。

◆グループ別討論について

- ・グループワークの際に使用できる文房具の種類が多いと、さらにクリエイティブな作品ができるのではないと思う。たとえば、ハサミ、のり、テープなど。
- ・学生から可能なら立つミニホワイトボードやポストイットが欲しいと要望がありました。
- ・グループ討論のセッションについて、用紙の使い方を進め方に明記する。
- ・学生討議の際に、ノート PC を持ち込み、明らかに論文を作成していると思われる先生がいらっしゃいました。多忙な業務のなかでの参加なので仕方ないと思いますが、討議中の場所なので、可能なら別の場所で作業される方が、学生への影響は少ないと感じました。また時間中チューターが横にずっといる方がよいのか否かについても検討していく必要があると感じました。

◆グループ別討論のポスター投票について

- ・事務の方の負担が大きいと思いますので、ポスター会場にはそれぞれグループの学生たちがポスターを貼りに行くまで主体的に行動していただいてもよいのではと思いました。
- ・ポスター会場が狭いので、ホテルの廊下をお借りすることができれば助かります。
- ・会場の広さの関係上、改善は困難かとも思われるが、ポスターセッションの場所をもう少し広くもつことができれば良いと思う。
- ・ポスター会場をさらに拡大した方が良いと思います。まだ狭く感じました。また、ポスターの順路を決める必要はないと思う。
- ・ポスター会場の大きさや人数について。
全員一斉に閲覧・投票は困難なので、食事を挟んで前・後などで閲覧、投票できるグループを振り分けてはいかがと思う。
- ・ポスター投票の仕方。今回は一気に投票に向かわせてしまった。次回からは、説明者を先にポスターの前に行かせた後、投票・説明を聞きに行かせるとか、工夫が必要と思います。

◆発表討論会について

- ・ベストポスターを選択して発表したのはとても良いと思った。
- ・2日目のポスター発表の質疑応答で、医学部、看護学部間での積極性の差が大きく、「看護学部の学生はどうでしょうか？」といった声掛けがあっても良いかもしれない。
- ・討論発表会で、フロアからの質問者用のマイク担当を2～3名配置する。司会進行者の1人だけでは、質問者の距離が離れていたら、移動が大変。
- ・全体討議は会場が広いのでマイクランナーを複数名配置できればと思います。
- ・発表討論会の次第、事前に打ち合わせが必要。
- ・ポスター発表の時によくディスカッションしたのが、質問する学生が何個の質問もして、質問をしていない学生がずっとしていないようで、各グループを質問させるルールを作るのもいいかもしれない。
- ・討論会で、質問するときや発表時は名前を名乗る、をしてはどうかと思います。通常は名乗りますので。

◆スケジュールについて

- ・上級生や教員が大学生活について新入生に話せる場や時間を確保したほうが良いのではない。実質新入生同士が自由に交流できる場所や時間は非常に限られていたため、研修そのものにメリハリを付けるためには、1時間程度であっても自由時間を設けたほうが良さそう。
- ・上級生と教員とで行ったホテル内の植物園や展望台が楽しかったので、新入生も行ける時間があるといいと思います。
- ・チューター組は自由時間に植物園と安藤忠雄の建築を楽しませていただきましたが、新入生に

も少しは自由時間をあげられたら、と思いました。

- ・自由時間が少ないという意見もあるが、ウエスティンのような高級ホテルに滞在するとなると他の宿泊者への配慮もあるので、時間配分としては今くらいがちょうどよいような感じもする。
- ・新大阪出発時の集合時刻。教員は少し遅くても良いのではないかと。ただし、集合時の事務連絡等があるので、事務方と実務委員の何人かは、学生の集合時刻前に来てもらっては？
- ・両日ともに平日で行けると個人的には嬉しい。

◆その他

- ・今回は学生生活委員としてではなく引率教員として参加しました。新任のため、報告経路がわかりませんでした。有事に備え、自分のグループの責任者名、総合の統率者名、病気や怪我の学生が出た場合の救護用品の有無などがしおりに記載されていると助かります。
- ・飲酒喫煙に関する常識と思われることについても冊子や事前のオリエンテーションで言及したほうが良さそう。併せて、喫煙しない医療従事者になることを強調してもよいのではないかと。
- ・この医看合同での作業は多職種連携教育の始まりであるということを教員が認知すべきだと思います。おそらく、こういう試みを知らない教員も多く、今後増加する多職種連携教育のスタートとして意識してもらうことが大切です。
- ・懇親会では学生と教員・スタッフが交流できるような配置にした方がよいと感じました。
- ・学生がホテル内を移動するとき、順番に移動するように指示する。
- ・ホテル側と協議し、例えば特定のエレベーターを使用するなどの措置をとる。
- ・外部からの先生を講師に来ていただいたセッション(救命救急)ではあらかじめ、司会を決めておく。
- ・学旗(当学のシンボル)は、重たいけど持って行った方がよいように思います。(考えが古いかな？)
- ・別に淡路島でなくてもいいのではないのでしょうか。
- ・淡路島は、強風が吹き荒れるので、開催場所の変更をご検討してみてはいかがでしょうか。ちなみに、淡路島は現自宅夙川から遠くはなく、年に何度か足を運んでおり、とても好きな場所ですが、合宿場所としては本州の方がよいのではと思いました。少し趣旨から外れて恐縮です。
- ・現行で概ね良いと思う。

4.その他(感想など)

◆グループ別討論、発表討論会について

- ・看護の学生が控えめで、言わせるように工夫した。
- ・ポスターの票数が少ないかと、ポスターの作成をリードした学生が精神的に落ち着かなかった。
- ・もっと楽しそうな賞を作った方が良い。
- ・お菓子やコーヒーなど用意して頂ければよかったと思います。
- ・ベストポスターの投票はあくまでも主観であり、派手なものが選ばれているような気がします。チューターには採点基準等を示しておくより客観的かもしれません。
- ・2日目の発表時に、学生が将来の留学などについて語り、これに対して留学経験のある教員が助言していましたが、このような質疑応答の時間を設けても良いのでは、と思いました。例えば、教養・基礎・臨床・看護の代表教員及び上級生が壇上に上がり、新入生の質問に適宜回答、時にはパネルディスカッションのようなことをしても良いかもしれません。

◆その他

- ・今年度、喫煙者と飲酒者がいました。学生は、大学の行事であるので禁酒であると認識しているとは思いますが、ガイダンスで、学生がわかっているけど禁酒、他人に迷惑をかけない喫煙の注意をしておいた方が良いと思います。
- ・学生の大学に対する要望に対して、実際に改訂された部分などがあるのか知りたい。
- ・移動時のエレベーター。一般客がまったく乗られない状態だったです。
- ・学友会からの参加者について。今回のグループワークテーマは、先輩からの意見が無くても十分ディスカッションできていた。学友会メンバーも時間を持て余していたように思う。また、看護学部からの先輩参加がなかったので、残念に思った。
- ・私自身、着任したばかりであり、初めての参加であったため、チューターとしての役割を果たすことができるか不安な状態で参加したが、討議の中での役割や進行など、他の教員や学生スタッフに聞きながらすすめることができた。学生は駅やホテルで盛り上がっていたので、一般の方々のご迷惑にならなかったか心配ではあるが、楽しそうに学生同士が話している姿には安心した。医学部と看護学部の学生がお互いにどのように考えて入学しているのかを知る機会は、非常に貴重だと思う。今回の機会での経験が学生の今後の生活に活かされていってほしいと思う。
- ・建学の精神入学の学生と触れ合えて有意義でした。
- ・ピュアな学生に触れられ、心が洗われた。
- ・医科大学にしかできない特色ある企画で素晴らしいと思いました。医学部の先生ともお話できるので緊張しますが新任教員には良い懇親の機会ですし、学生のレディネス把握にも最適で

す。ホテルも個室を準備していただけるので参加の負担が軽減されます。有難うございました。

- ・初めてのことで緊張しましたが、教員の先生方がリードしてくださったので安心して参加できました。
- ・昨年に比べ、いろいろなことがとてもスムーズに運んだと思います。準備と運営に携わってくださった職員および教員の方々に感謝申し上げます。
- ・学生のいきいきしている姿が見れたのが嬉しかったし、普段あまりお話する機会のない多領域の先生方とお話でき、とても楽しかった。
- ・昨年度も参加させて頂きました。グループ討議や発表を聞き学生さんの入学時の素直な気持ちで医療人を目指す思いに感心します。参加して自分自身も初心に戻ろうと感じています。準備から当日の運営等、本当にお世話になりました。
- ・今回の合宿を企画、運営して下さいました皆様、ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・教員も楽しめました。

<学生スタッフ>

1.今回の合宿で良かった点

◆学生について

- ・1年生の全体の雰囲気わかり、一部の話しかけてくれた1年生とは多少仲良くなれたこと。
- ・学生スタッフに所属している後輩たちと仲良くなれたこと。
- ・在校生が新入生の点呼や整列を担当していたので、その時に生徒たちの名前と顔を一致させられたのはとても良かったと思います。

◆グループ別討論について

- ・一回生が意欲的にポスター作りに参加していたこと。
私が一回生の時よりもポスター作りの項目の内容がよかった。(学校の授業に求めるものなど)
ポスター作りの部屋が個室ではなく大部屋だったこと。他の学生が考えていることを違う班同士でも少し見に行くことができるのが良いと思った。
- ・討論が行き詰まった時にチューターの先生方が「じゃあ学生スタッフに聞いてみよか！」などと積極的に言ってくださったので、和に入りやすく私たちをより有効的に利用していただけたと思います。
- ・話し合いの時間が長く、時間に余裕を持ってまとめることができた。
- ・ポスター作製の時間が長かったので、ポスター作製班で多くの新入生と話すことができたこと。
- ・普段話することがない先生たちと話げできたこと。

◆グループ別討論のポスター投票について

- ・ポスター投票の混雑が緩和されていたこと。

◆その他

- ・ホテルが綺麗で満足でした。
- ・2日目の自由時間で楽しめたこと。

2.今回の合宿で悪かった点

◆グループ別討論について

- ・ポスター作りの時間が長すぎたこと。学生チューターの出番が少なかったこと。
- ・ポスター作りの際に1つのテーブルに最低1人先生がおられたので、あまり僕たちが介入することなく進んで行ったので学生のスタッフがいなくても大丈夫だと思いました。
- ・看護から上級生が来てなかったので、看護学部 of 生徒達に質問されても知らないことが多くて答えづらかったです。
- ・在校生は点呼や整列以外で何をすればよいのかわからなかった。例年ポスターを作っているが、ポ

スターの作成に在校生がもっとかかわることができたらよいと思う。

◆グループ別討論のポスター投票について

- ・ポスター投票の際に、ポスター前に班員がいる班といない班があった。

◆発表討論会について

- ・2 日目のポスター発表会の質問タイムがダラダラ長かったこと。同じ学生が難しい質問を何度も投げかけていたことが原因だとは思いますが…(チューターの先生の AI のお話はすごくためになりました。)

◆その他

- ・2 日間一緒に過ごしたもののやはり僕たちと1 回生の距離感が縮まって話しやすくなるような機会がなかったし、その関係の中で 1 回生も僕たちに話しづらかったと思うしもう少し交流できる場があればよかったんじゃないかと思います。
- ・新入生同士が交流する時間が少なかったと思う。AED とか毎年やってるけど、医学科は実習で習うししなくてもいいんじゃないかなーと。。正直ポスター作製もする必要あるのかな…と思った。

3.今後の合宿に向けて改善点や要望

◆グループ別討論について

- ・ポスター作成は2 時間程度で切り上げて、一回生同士が仲良くなれるようなアクティビティを入れた方が良かったと思った。せっかくドクターや上回生がチューターになっているので、将来や学校生活に関する質問などをする時間を設けて、これからの生活の具体的なイメージを持ってからポスターを書いた方が良かったと思った。

◆その他

- ・来年から合宿の時期を遅めるかもという話を先生からお聞きしたのですが、合宿は新入生が新しい友達をつくる貴重な時間なので、もし本当にそうなるのであれば入学式直後に合宿に代わる親睦を深められる行事を何か行ってほしいです。
- ・もう少し学生のスタッフを巻き込んで僕たちが率先して1 回生と交流しないといけない時間をプログラムに組み込んだらいいと思います。

先生方の話もちろん大切だと思いますが、やはり同じ目線の僕らと話す方が学校生活や部活、バイトのことなどがより分かると思うので、ポスター作りの時間などでもう少し生徒同士の会話がで
きる時間を増やせばいいんじゃないかと思います。

- ・班が同じ人以外とも仲良くなれるような企画があった方が良かったと思った。
- ・在校生にもっと仕事割り振ってくれても大丈夫です！
新入生も入学したばかりで在校生たちにいろんなこと聞きたいだろうし、もっと新入生と話せる時間を作ってもらいたいです。
- ・もう少し自由時間があればいいと思います。
- ・校歌を歌える人が少ないのでできれば音声アリの CD を流してくれるとありがたいです。というか、校歌の合唱は必要でしょうか…。
- ・先生たちがしている役割を全部生徒に任せてしまってもいいと思います。

4.その他(感想など)

- ・琵琶湖の時よりホテルのクオリティーが改善され、食事も美味しく良かった。
- ・授業でお世話になった先生方と色々お話することができ、ホテルも綺麗でとても楽しませていただきました。新入生のお役に立てていれば光栄です。ありがとうございました。
- ・もし来年もあれば、参加したいです。
- ・新入生合宿お疲れさまでした！アンケートの回答遅くなってすみません。。
在校生として行ったにもかかわらず、ポスター制作中に生徒から話しかけてくれることが少なく、あまり役目を果たせていたのかわからないですすみません…。
2 日目は植物園にいろんな先生たちと行くことができてとても楽しかったです！
新入生だけでなく、先生や事務の方たちと話す機会ができてとてもうれしかったです。
邪魔じゃなければ来年も行かせてください^^
ありがとうございました。